

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道Ⅲ Career Development	年次	2	実務経験	担当	仁藤 都
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、希望就職先へ内定できるようになる。 ②笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	スケジュール帳・筆記用具					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	他己紹介	2人1組。相手をよく知り、クラスの仲間に紹介することでより良いクラス作りをする。
2	就職対策	履歴書の重要性を知り、ライバルに勝てる履歴書が書けるようになる。
3	就職対策	社会人としての言葉使いを覚える。敬語・丁寧語を正しく学ぶ。
4	就職対策	プレゼンテーション力を磨き自己PRができるようになる。
5	グループワーク	自己PRを共有し気づきをまとめ、それを活かすためにどの様にしていくかを考える。
6	グループワーク	グループディスカッションで社会人基礎力【考える力】を身につける。
7	中間試験	企業側の目線に立ち、『どのような人材がを求めているか』を考えてまとめる 800文字以内
8	ヘアメイクスキル	感性を磨き、頭の中の引き出しを増やす。
9	グループワーク	頭の中のイメージをデザインにすることができるようになる。
10	グループワーク	デザインを形にすることができる。
11	グループワーク	作品を活かす小道具や背景、ポージングを知る。
12	グループワーク	オリジナリティーのある作品を作りあげる。
13	グループワーク	想定した顧客のニーズを満たせる賞品を話し合い、売るという軸からブレない力を身に付ける。
14	定期試験	社会に出ていくために必要なことについてまとめる。800文字以内
15	定期試験振り返り	14回で考えたことを全体で共有する。5年後、10年後のビジョンについて考える

科目名 (英)	ヘアメイク I Hair Makeup I	年次	2	実務経験	担当	田中いづみ
		授業形態	実習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	都内専門学校卒業後、ヘアメイク事務所に所属、5年間勤務の後独立。現在フリーランスとして活動中。専門学校にて講師歴8年経験もあり。現在は広告やWeb movie、アーティストMV等男女問わず幅広く活動中。ブライダルメイクとしての活動経験もあり。より実用的でトレンドを意識した講義を目指します。					
目的 科目概要	目的:ヘアメイクとして活動していくにあたり、様々な要望に答える力を身につけ、提案力も養っていく。 概要:1年次に学んだ事をベースに、更にメイクの幅を広げていく。実際に現場で活躍しているアーティストから実践的なカリキュラムを学ぶ事で、空気感等リアルに体感しながら、実際に現場で起こり得るトラブルへの対策も含めて、アーティストとしてのレベルアップを目指す。					
到達目標	アーティストとしての基盤を築き、多くのテストシュートをこなす提案力やアイデンティティを身につける。 アシスタントとして世に出るために必要な事、現場に行きより迅速に動ける力を身につける。 SNSの真似ではなく、オリジナリティをもち、新しい時代に対応できる若々しい感性を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	なし(ただし、A4のファイルを用意し、自ら作り上げていく)		事前事後 学習と その内容	必要に応じて課題を出していくので、必ず期日までに仕上げる事。 常にメモをとり、気付いたことは調べる。 技術復習はもちろんの事、常に様々なモデルで練習する事。		
教材	メイク道具一式 (タオル/ティッシュ/筆記用具含む)					
特記事項	特になし					

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション メイクスキルチェック	授業の注意事項、今後の流れについての説明。相モデルで相手に似合うメイクを仕上げる。イメージを明確に「キュート・クール・エレガント」より選択。
2	質感メイク	ベースメイクからこだわって作る事を学ぶ。プロセスだけにとらわれず、質感の持つイメージの全体像を学ぶ。ここでは主にツヤ肌にこだわる。それに合わせたツールも紹介する。
3	スモーキーアイ	印象的なスモーキーアイを作る。ファンデーションをあと塗りで作る事で既存のプロセスにとらわれない大事さを学ぶ。
4	アイラッシュワーク	アイラッシュを美しくつけるコツを学ぶ。また、様々なアイラッシュを実際見て、もたらず印象の違いも学ぶ。また、アイラッシュを使ったデザインメイクもリファレンスで見せていく。
5	ストーンを使ったメイク	ストーン(スワロフスキー)を使ってメイクを仕上げる。学生には100円均一のストーンを用意させるが、デモストでスワロフスキーを使い、美しさの対比を見せる(質の良いものを使うことの大事さを学ばせる)
6	作品のブラッシュアップ	試験に使用するビジュアルに基いてメイクを仕上げる。 すぐに答えを求めるのではなく、自分で考えて自分なりに仕上げてみる。
7	中間試験	こちらが提示したビジュアルをモデル(相モデル)で再現。
8	広告(ビューティー)の構成について	期末テストでの課題は「新商品コスメの広告撮影とそのプレゼン」とする。 その為に各自で好きなジャンルの様々な広告を読み解きシートを仕上げる(コラージュを課題とする)
9	リキッドライナーテクニック	リキッドライナーで美しいラインを描けるようになる。抜けや左右対象さなどチェック。
10	ダブルライン	ダブルラインのテクニックを学ぶ。カラーラインなどにも置き換えて、ポップなデザインにも組み込んで行けるようにする。
11	アシスタントワークフォロー 撮影時の心得	別のアシスタントワークの授業と並行するが、様々なアシスタントワークがある事を学ぶ。主にQ&A形式にする。また、この際、疑問なども事前にアンケートを取り、回答していく。来たる撮影日に向けての撮影基礎知識もこの時、教示していく。(撮影基礎・撮影で大事な事)
12	テストメイク	実際に自分のデザインしたメイクを仕上げてみる。更にコンセプトシートと照らし合わせてそこへのアドバイスを受け、ブラッシュアップを図る。
13	作品のブラッシュアップ	コンセプトシート作成、リファレンスチェック、撮影場所を各自校内にてロケハン。 セルフメイクでのメイク練習。
14	定期試験のための撮影	コスメ新商品をテーマにした作品を作成。実際にモデルにメイクし、シューティングする。 (学校側でフォトグラファーの手配をお願い致します)
15	定期試験	撮影した作品をプレゼンテーションする。作品は実際にプリントアウトすること。

科目名 (英)	ヘアメイク I Hair Makeup I	年次	2	実務経験	担当	足立 祐季
		授業形態	実技			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	2			
講師紹介	雑誌、広告媒体の仕事を多くこなす現役ヘアメイクアップアーティストによる現場実践型の授業を行います。					
目的 科目概要	面やすじ等の質感調整ができるようになる。スタイルのバリエーション、和装ヘアスタイルを学ぶ					
到達目標	面やすじ等の質感調整ができるようになり、洋装だけでなく和装のスタイルも作れるようになる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	不要	事前事後 学習と その内容	授業時は必ずメモをとり、必ず復習をすること。			
教材	ヘア道具一式					
特記事項	授業時はエプロンを着用のこと					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8	カールアップ	カールアップのデモ後、ポイント説明、カールアップを美しく仕上げる
9	カールサイドすじ流し	カールサイドのデモ後、ポイント説明、カールサイドを美しく仕上げる
10	カールサイドすじ流し	すじの強化、シルエット強化する
11	和装シニヨン	和装シニヨンのデモ後、ポイント説明、すき毛の使い方の復習後、シニヨンを美しく仕上げる
12	和装シニヨン	より面を美しくバランスに気をつけて美しくシニヨンを作る
13	和装下張り	カールアップのデモ後、ポイント説明、カールアップを美しく仕上げる
14	定期試験練習和装下張り	下張りデモ後ポイント説明、スタイルのポイント説明後美しく仕上げる
15	定期試験	定期試験

科目名 (英)	ヘアメイク I Hair Make Up I	年次	2	実務経験	担当	藤井明花
		授業形態	実習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	ブライダル、和装着付け、宣材撮影、ヘアメイクショー、メイクセラピーなど様々な現場で活動しています。それぞれの現場で何を求められているのかを的確に理解し、提案できる力を身に付けることはもちろん大切ですが、自分自身がヘアメイクを大好きであることと、相手の立場に立って物事を考えられる人間性の大切さを伝えていきます。					
目的 科目概要	目的:現場で求められるイメージを的確に理解し自在に表現できる力を身に付けるとともに、クライアントの想いに寄り添ったマインドでヘアメイクを提案できるようになる。 概要:イメージを的確に表現できる技術を養い、骨格や顔立ちを理論的に分析し、似合わせる術を身に付ける。またそれを言語化し説明できる力を養う。					
到達目標	様々な現場で求められるイメージを的確に把握し、確実な技術で表現することができる。 理論に基づいた印象分析ができ、自分がなぜこのヘアメイクをするのか言語化して説明することができる。 クライアントの気持ちに寄り添ったヘアメイクの提案ができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	なし					
教材	ヘア道具・メイク道具一式、筆記用具	事前事後 学習と その内容	自分が興味のあるジャンルだけでなく、様々なものに興味関心を持ち、調べたり体験することが自分の引き出しを増やすことに繋がるので積極的に取り組んでみましょう。			
特記事項	板書や課題シート以外にも、必要だと感じた時にメモを取りましょう。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・技術チェック	メイク技術チェック モデルに似合うナチュラルメイクを45分で仕上げる。 ヘア技術チェック ホットカーラー、コテ巻き 30分で自由に1スタイル仕上げる。
2	イメージヘアメイク①	指定されたイメージを理解し、ヘアメイクで表現する。 テーマ:キュート&ラブリー ヘア:編み込みスタイル
3	イメージヘアメイク②	指定されたイメージを理解し、ヘアメイクで表現する。 テーマ:マニッシュ&エレガント ヘア:オールバックスタイル
4	イメージヘアメイク③	指定されたイメージを理解し、ヘアメイクで表現する。 テーマ:カジュアル&ヘルシー ヘア:編みおろし
5	似合わせヘアメイク	相モデルのその日のファッションのテーマを設定し、今まで習った技術を織り交ぜながら、それに合うヘアメイクを考える。
6	中間試験対策	美容総合技術 I で作成した花びらドレスに合うヘアメイクを考え、制限時間60分以内に仕上げられるよう訓練する。講師によるフィードバックを受け、修正を加える。 ・課題シート作成
7	中間試験	美容総合技術 I で作成した花びらドレスに合うヘアメイクを制限時間60分以内に仕上げる。 ・課題シート提出
8	パーツバランスと印象①	骨格と顔立ちによる印象を理解する。相モデルで顔立ちの印象分析を行い、フィードバックする。 ・遠心メイクと求心メイク
9	パーツバランスと印象②	パーツ修整テクニックを習得する。 ・タレ目メイク、ツリ目メイク・目の形別に映えるアイメイク ・リップサイズと口角の修整
10	印象チェンジヘアメイク	相モデルの顔立ちを印象分析し、真逆のイメージに変身させるメイクを考える。
11	好印象ヘアメイク	就活ヘアメイク、CAヘアメイク
12	小顔ヘアアレンジ	骨格に合わせた小顔に見せるヘアアレンジを習得する。 相モデルの骨格に合わせたヘアアレンジを考える。
13	カウンセリング技術	クライアントの希望のヘアメイクを、画像などを見ずにカウンセリングによって情報を聞き出しイメージに近づける。
14	定期試験対策	相モデルをクライアントと設定し、印象分析をした上で悩みやなりたいイメージをカウンセリングによって共有し、それを叶えるヘアメイクを考える。 ・課題シート作成
15	定期試験	相モデルをクライアントと設定し、印象分析をした上で悩みやなりたいイメージをカウンセリングによって共有し、それを叶えるヘアメイクを考える。 ・課題シート提出

科目名 (英)	美容総合技術 I (ブライダルブーケ) Beauty Practice I	年次	2	実務経験	担当	五十嵐倫子
		授業形態	講義・演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	2			
講師紹介	大手花企業にて、企画から販売まで多岐にわたり勤務。後、フラワースタイリスト、カラーコーディネーター、カウンセラー、専門学校講師として、長きにわたり、多岐にわたるシーン、さまざまなお客様に、花、色をご提案、ご提供してきました。					
目的 科目概要	生花とアートフラワー、ドライフラワーの特性を知り、TPOに合わせてご提案できる。創った作品が、どんな方に似合うのか、どんなドレス、ヘアメイク、シチュエーションとコーディネートするといいいのかをイメージできるようにする。ハサミなどの要具の正しく安全な使い方、無駄のない資材の使い方を習得する。また時間内の準備、制作仕上げ、片付けの時間配分ができるようにしてください。					
到達目標	花を知る 花を楽しむ 花を活かせる ことを目標としています。花名、花言葉を覚えながら、コミュニケーションに提案に活かす。ヘアメイクの現場で、使える花の扱い、知識、応用を実習を通して行う。現場での提案や、とっさの対応ができるようになってほしい。					
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。</p> <p>■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 作品 ■ 中間テスト(50点) 筆記50点 ■ 小テスト(20点) 時間内の作品時間内アップ 準備、片付け 作品感想 内訳 (各3点) 1 2 5 6 (各4点) 3 4 ■ 課題作品カラーージュ提出(30点) 各5点×6 計100点満点</p>					
教科書	なし		事 前 事 後 学 習 と そ の 内 容	次週に必要なものを確認、毎回写真を撮っておくこと		
教材	プリント					
特記事項	毎回机に敷くシート持参					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	母の日のコサージュ(アートフラワー)	アートフラワーでのワイヤリング、テーピングができる。花の組み方がわかる。コサージュのつけ方がわかる。
2	ブーケのリメイク(アートフラワー) グループワーク 6人/G	形の崩れたブーケの手直しができる。前回理解した内容(ワイヤリング、テーピングを活かし、リメイクができる。また持ち方、フトニアの付け方も学ぶ。
3	スワッグ(生花～ドライフラワーへ)	生花の水揚げ方法を、扱いを知る パラレルの花束の組み方がわかる 生花から、ドライフラワーへの変化を感じる
4	ドレスのペタルカラーージュ(生花)	ドレスのデザイン画に、ペタル(花びら)で、ドレスのカラーージュ作成 花びらの向き、特性を知る イメージ、色からテイストを学ぶ
5	ヘッドコサージュ(アートフラワー) グループワーク 2人/G	1輪づつ、または、組み合わせたコサージュのヘッドコサージュを作成 し、ヘアメイクするヘアピンなどヘアメイクに必要なツール持参
6	リストレット(アートフラワー) グループワーク 2人/G	5回目とセットになるようなリストレットを創る 7回目提出の課題カラーージュ作成
7	定期試験・終了後の解答解説	花名(筆記) 課題カラーージュ提出 発表
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	美容総合技術 I (まつ毛エクステンション) Beauty Practice I	年次	2	実務経験	担当	川戸 有子
		授業形態	講義 演習			
		時間数	30	有		
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2			
講師紹介	まつ毛エクステ、エステ技術者・経営をしております。まつ毛エクステンションを行うために必要な安心・安全を第一とする技術者としての自覚や心構えを学んでもらいたいです。					
目的 科目概要	近年、まつ毛エクステンションは多くの女性に人気を集めるようになりました。まつ毛エクステンションは、自まつ毛に装着するので危険が伴います。そのため、確かな知識や技術が必要です。私も日々細心の注意を心がけております。					
到達目標	まつ毛エクステンション施術について、安全・衛生面の重要性とともに基本知識・技術を習得する。カウンセリング・デザインからエクステンション装着をマネキンを利用して施術を行う。安全に丁寧に美しく仕上げるができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	プリント(補助教材)					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8	まつ毛エクステンションとは	左右のツイーザーに慣れ、まつ毛をかき分ける。まつ毛をツイーザーの間に1本入れる。
9	カウンセリングについて	まつ毛クレンジング～エアブローのかけ方。エクステンションを練習用のペーパーに装着する
10	まつ毛の構造と毛周期について	マネキンにエクステンションを装着する
11	まつ毛エクステンションのデザインについて	リムービングが正しくできる。エクステンション装着、デザイン(キュート・セクシー)
12	課題プリント50問	まつ毛エクステンションについて安全面・衛生面・基本知識などの復習
13	まつ毛エクステンションの施術の流れ	エクステンション20本のリムービング。エクステンション30本の装着
14	模擬試験	模擬試験50問 実技タイムトライアル(30本リムービング、30本装着)
15	定期試験・解説	まつ毛エクステンション施術の安心・重要性を理解し、エクステンションを丁寧に美しく仕上げる

科目名 (英)	美容総合技術 I Beauty Practice I	年次	2	実務経験	担当	田野入 麻記子
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	2			
講師紹介	ネイリストとして国内のみならずニューヨークコレクションなどファッションショーでのバックステージや、海外での一流アーティストの撮影にも携わる。また、日本ネイリスト協会の常任本部認定講師としてネイリスト検定試験の試験官を長きにわたり務めている。					
目的 科目概要	ブライダルネイルを通してヘアメイク作品に活かせるネイルアートを作ることができるようになる。					
到達目標	ブライダルネイルに必要な基本的な技術を習得し、ブライダルのトータルコーディネートが出来るようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	ネイル道具一式					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ネイルチップ作製の基本 シンプルなストーンアート	ネイルチップを作成するときのサイズの選び方や装着の仕方など基本を学びます。 ラインストーンを用いたシンプルなネイルアートの習得。
2	ジェルや絵の具を用いたフラットアート	ブライダルで特に需要があるフラワーを中心としたフラットアートを作成する。
3	シンプルなデザインでのサンプルづくり	これまで習得してきた技術を生かして5本組のサンプル作りを行う。
4	3Dアートを学ぶ	アクリル商材を用いた3Dアートを学ぶ。ミクスチュアの特徴を生かした基本的なアートを学ぶ。
5	相モデルトレーニング①	基本のお手入れを施しシンプルなデザインをトレーニングする。
6	相モデルトレーニング②	基本のお手入れを施し、時間内にできるデザインをトレーニングする。
7	定期試験	定期試験
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	美容総合理論 I (卒業制作) Beauty Practice I	年次	2	実務経験	担当	長尾 建
		授業形態	演習			
		時間数	30	有		
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2			
講師紹介	ヘアメイクアップアーティストとして様々な現場に携わってきました。これまでの経験から皆さんの作品作りに役立つと思われる知識、技術をお伝えします。					
目的 科目概要	目的:仕事の現場で必要とされるアイデア力、コミュニケーション能力を学ぶ。 概要:この科目では卒業制作に向けてチームの中で様々な意見を出し合い、各々のテーマに沿った作品を創りあげ今後の職業人生活により良い影響を与える授業にする。					
到達目標	授業で学んだ技術、知識を応用することができる。 他者と一つの目的に向けて自分の意見を出し合う事ができる。 集団の中で自分の役割を認識し、達成に向けて各々が能力を発揮する事ができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 作品					
教科書						
教材	適宜紹介する。			事前事後 学習と その内容	テーマに沿ったヘアメイクを創るので普段から様々な雑誌や映画などを観てアイデアの収集に努めて下さい。	
特記事項	作品創りに必要な資料及び材料は授業に持ってきて頂いて構いません。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	
1	チームテーマ議論	チームのテーマを決める。及び役割分担や今後のスケジュールを確認する。
2	デザイン制作	昨年度のショーなどを振り返り、新しいデザインを模索する。
3	デザイン制作2	チーム内での意見交換を行い、デザインの精査を行う。
4	デザイン決定	デザインを決定し、衣装や小物などの服飾品のイメージを考える。
5	ヘアメイク練習	デザインに沿ったヘアメイクをし、改善点を考える。
6	ヘアメイク練習2	改善点を元にデザインのブラッシュアップを行う。衣装などの制作も行う。
7	チーム内発表	全体の最終的なチェックをしていく。舞台での動き方や音響、照明とのすり合わせを行う。
8	定期試験	定期試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	フェイシャルエステ Facial Esthetics	年次	2	実務経験	担当	山田 優子
		授業形態	講義 演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	エステティシャンとして、約18年間、フェイシャルケア、ボディケア等様々な美容サービスを提供してきました。また美容専門学校においては現場経験を踏まえながら心身を癒し、美肌やボディラインを整える為のノウハウをお伝えしています。この授業では美容家として社会で活躍する際に、それぞれの職業で役立つ知識や技術をお伝えしていきます。					
目的 科目概要	お客様を癒し、美しく健康を維持する為に必要な基礎知識、技術及び接客マナーを習得する。お客様からの信頼を得る為のコツやポイントを学ぶ。					
到達目標	フェイシャルエステにおける、クレンジングからフェイシャルマッサージまでの一連のトリートメントを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	AJESTHE:認定フェイシャルエステティシャン理論と技術		事前事後 学習と その内容	シラバスを参考に、毎回の授業概要と到達目標を理解して授業に参加すること。		
教材	適宜指示					
特記事項	毎授業においてメモをとる事					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	エステティックとは/フェイシャルトリートメントの基礎知識	エステティックに関する基礎知識を学ぶ。フェイシャルエステティックに必要なセッティング及び、清掃、消毒法を学ぶ。
2	ホメオスタシスとストレス/クレンジング	ホメオスタシスとストレスについて学ぶ。接客における気配りやフェイシャルクレンジングの技術を習得する。
3	身体のしくみと働き①/スポンジ拭き取り	身体のしくみや働き、フェイシャルエステティックに必要な筋肉やリンパ系について学ぶ。フェイシャルエステティックのスポンジ拭き取りの技術を習得する。
4	身体のしくみと働き②/スチームタオル	血液やリンパの流れ、自律神経などの身体の仕組みを理解し、より効果的なトリートメントの仕方を学ぶ。フェイシャルエステティックのスチームタオルの技術を習得する。
5	皮膚のしくみと働き①/クレンジングの復習	皮膚のしくみと美容女大切な皮膚の働きについて学ぶ。フェイシャルクレンジングの一連の流れを習得する。
6	皮膚のしくみと働き②/クレンジング技術チェック	様々な皮膚状態とお手入れのポイントについて学ぶ。睡眠や運動が皮膚へ及ぼす影響について学ぶ。フェイシャルクレンジングの技術を習得する。
7	中間試験	6回までの講義の理解度を確認する。
8	カウンセリングとは/フェイシャルマッサージ	エステティックカウンセリングの基礎手法と、お客様との信頼関係を構築する上で重要なポイントを学ぶ。フェイシャルマッサージの軽擦法を習得する。
9	化粧品の種類と働き/フェイシャルマッサージ	フェイシャル化粧品の特徴、種類、原料、使用上の注意事項を学ぶ。フェイシャルマッサージの強擦法を習得する。
10	栄養の知識/フェイシャルマッサージ	健康や美容を維持する為に必要となる基礎知識を学ぶ。フェイシャルマッサージの揉捏法を学ぶ。
11	衛生と消毒/フェイシャルマッサージ	エステティシャンとして適切な衛生環境を維持する為の具体的な衛生設置や消毒方法について学ぶ。フェイシャルマッサージの打法を習得する。
12	皮膚のしくみと働き③/フェイシャルマッサージ	ストレスと肌への影響、エイジングケアについて学ぶ。フェイシャルマッサージの振動法を習得する。
13	皮膚のしくみと働き④/フェイシャルマッサージ	肌タイプの見極め方と、お手入れ方法について学ぶ。フェイシャルマッサージの圧迫法を習得する。
14	エステティックの基礎知識/フェイシャルマッサー ジ	エステティシャンとしてのホスピタリティマインドを理解し、サービスを提供する際に意識するポイントや身体の使い方、基本姿勢について学ぶ。フェイシャルマッサージの一連の流れを習得する。
15	定期試験	8～14回までの講義の理解度を確認する。

科目名 (英)	パーソナルカラー Personal Color	年次	2	実務経験	担当	山口妙子
		授業形態	講義、実習			
学科・コース	HM科	時間数	30	有		
		単位	2			
講師紹介	某有名美容室を経て、フリーランスとして独立。業界紙、ヘアショー、海外セミナー等を経験しました。パーソナルカラー1級、色彩検定1級。カラーデザイナーマスター取得。将来仕事に役立つパーソナルカラーの知識を実践も踏まえてお伝えします。また、パーソナルカラー検定3級の検定対策も行います。皆さんで合格を目指しましょう。					
目的 科目概要	目的: 似合う色を身につける事で、よりよく自己を印象づける「自分ブランディング」ができるようになるポイントを学ぶ。 概要: パーソナルカラーの探し方や取り入れ方の基礎、そのもとになる色彩学の基礎を習得する。自分自身の似合う色を実習の中で学んでいく。					
到達目標	自分には客観的にどのような色が似合うかを学び、「自分ブランディング」ができるようになる事で自分に自信を持ち、自己表現の幅を広げる。パーソナルカラー検定3級(2020年度夏季)の合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	色彩活用パーソナルカラー3級テキスト		事前事後 学習と その内容	授業の進行に合わせて、課題の予習・復習、問題集、プリントの課題を実施する。		
教材	3級問題集、新配色カード199b					
特記事項	はさみ、のり、筆記用具も持参してください。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、パーソナルカラーとP.I	授業内容、パーソナルカラー(似合う色)を知ることのメリットと概要を理解する。
2	色の三属性(色相、明度、彩度)、トーン一覧CW	色彩の基本である色の三属性(色相、明度、彩度)を学ぶ。トーン一覧CWIについて理解する。
3	トーン(色の調子)	トーンの考え方と仕組みを理解する。身の周りの色や指定された色のトーンを答えられるようになる。
4	パーソナルカラーの基本、4シーズンのカラーパレット	パーソナルカラーの基本を学ぶ。4シーズンの色の特徴を見分け、色分類ができるようになる。
5	色素の種類とP.I、色素の特徴(肌、髪、目)	色素の種類とP.I、特徴(肌、髪、目)について理解する。自分の色素チェックを試みる。
6	色名、ドレーピング手法、似合う色と似合わない色	色名について理解し、ドレーピングでの顔映りの変化、効果と影響についてを知る。
7	中間試験、光について	1回目～6回目の授業内容を理解できているか確認試験を行う。光について理解する。
8	対比(明度、彩度、色相)、色の影響の現れやすさ	対比(明度、彩度、色相)について理解し、色の影響の現れやすさを確認する。
9	パーソナルカラー3級検定試験	注意事項の説明、試験時間60分
10	ドレーピング実習①	グループ分けをし、実際にドレープを使って色による顔色の変化(顔映り)を体感する。
11	ドレーピング実習②	前回に引き続き、全員ドレーピングをし、診断結果をまとめる。
12	ドレーピング診断結果のまとめ、似合う色の取り入れ方	ドレーピング実習を踏まえて、自分に似合う色の取り入れ方を理解する。
13	P.IIによる自分ブランディング	P.IIによる自分ブランディングを確認し、どのように活かしていきたいかを考える。
14	定期試験	前回までの授業内容を理解できているか確認試験を行う。
15	自分ブランディングプレゼンテーション	自分ブランディングについて、各自でまとめて発表する。

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道IV Career DevelopmentIV	年次	2	実務経験	担当	仁藤 都
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、希望就職先へ内定できるようになる。 ②笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	スケジュール帳・筆記用具					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	他己紹介	後期のクラスがもっとよくなるように【言葉の花束】をつくり自己肯定感を高める。
2	社会人基礎力	グループディスカッションで社会人基礎力【考える力】でマナーを身につける。 【テーマ】ネガティブな言葉をポジティブに変換してみよう
3	社会人基礎力	社会人基礎力【考える力】を身につける。【テーマ】きれいな文字を書こう 参考:ペン字練習帳 お礼状を書こう
4	社会人基礎力	社会人基礎力【考え、伝える力】を身につける【テーマ】人前で報告する。例:ぶれずにきれいに写せるカメラができた。操作が簡単でシンプルで高性能のため、高齢者に喜ばれている。
5	社会人基礎力	社会人基礎力【考える力】を身につける。 【テーマ】仕事をやめないためには何が必要か
6	中間試験	社会人基礎力【考える力】を身につける。 【テーマ】後悔のない人生を送る為にはどうすればいいか。
7	社会人基礎力	グループディスカッションで社会人基礎力【考える力】を身につける。 【テーマ】転職について考える。
8	社会人基礎力	グループディスカッションで社会人基礎力【考える力】を身につける。 【テーマ】一生美容業界で働くために必要なスキルや心構えを考える。個人で考え、社会にでて活かしていけるようにまとめる。
9	社会人基礎力	グループディスカッションで社会人基礎力【考える力】を身につける。 【テーマ】クラス全員で敬語で話し、間違った敬語は教えてあげよう
10	社会人基礎力	グループディスカッションで社会人基礎力【考える力】でマナーを身につける。 【テーマ】上座・下座について考えてみよう【会議室・タクシー・飛行機・電車】
11	社会人基礎力	グループディスカッションで社会人基礎力【考える力】でマナーを身につける。 【テーマ】名刺の交換について考えてみよう
12	社会人基礎力	グループディスカッションで社会人基礎力【考える力】でマナーを身につける。 【テーマ】感じのいい電話対応について考える
13	社会人基礎力	想定した顧客のニーズを満たせる賞品を話し合い、売るという軸からブレない力を身に付ける。 例)鉛筆を3万円でするにはどうしますか
14	定期試験	社会人基礎力【考える力】を身につける。 【テーマ】社会人として、美容師としてどのように過ごしていくかを自分なりに考え400文字以内にまとめる
15	定期試験振り返り	14回で考えたことを全体で共有する。5年後、10年後のビジョンについて考える

科目名 (英)	ヘアメイクⅡ hair MakeupⅡ	年次	2	実務経験	担当	田中いづみ
		授業形態	実習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	現在もヘアメイクとして活動中。専門学校にて講師歴8年経験もあり。現在は広告やWeb movie, アーティストMV等男女問わず幅広く活動中。ブライダルメイクとしての活動経験もあり。より実用的でトレンドを意識した講義を目指します。					
目的 科目概要	目的：ヘアメイクとして活動していくにあたり、様々な要望に答える力を身につけ、提案力も養っていく。 概要：1年次に学んだ事をベースに、更にメイクの幅を広げていく。実際に現場で活躍しているアーティストから実践的なカリキュラムを学ぶ事で、空気感等もリアルに体感しながら、実際に現場で起こり得るトラブルへの対策も含めて、アーティストとしてのレベルアップを目指す。					
到達目標	アーティストとしての基盤を築き、多くのテストシュートをこなす提案力やアイデンティティを身につける。 アシスタントとして世に出るために必要な事、現場に行きより迅速に動ける力を身につける。 SNSの真似ではなく、オリジナリティをもち、新しい時代に対応できる若々しい感性を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	なし(ただし、A4のファイルを用意し、自ら作り上げていく)			事前事後 学習と その内容	技術復習はもちろんのこと、常に様々なモデルで練習する事。	
教材	メイク道具一式 (タオル/ティッシュ/筆記用具含む)					
特記事項	特になし					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	年代別メイク説明	年代別メイクの重要性と、現代で実際に使われた例を参考も併せて説明。
2	年代別メイク (50's)	50年代をベースとしたメイクを学び、習得する。
3	年代別メイク (60's)	60年代をベースとしたメイクを学び、習得する。
4	年代別メイク (80's)	80年代をベースとしたメイクを学び、習得する。
5	年代別メイク (20's)	20年代をベースとしたメイクを学び、習得する。
6	作品ブラッシュアップ	中間試験のテーマ発表。 ファッションとリバイバルをテーマに、好きなファッションスタイリングを1枚画像で用意。それに合わせたメイクを提案、練習させる。
7	中間試験	自分で決めたメイク画に沿ってメイク(テーマは固定)で、テスト。 コンセプトシートも同時に提出させる。
8	広告プランニング	クラス内をいくつかのチームに分けて、同じテーマで複数モデルを使った広告作成を 着地とする。(その際、リアリティの追求は忘れない) それに向けてのチーム分け、テーマ発表、ミーティング。
9	各チームでのミーティング	チームに分かれてミーティングする。 授業のラストにプレゼンをさせ、現状での講師評価を仰ぐ。 (場合によっては現時点での順位付けも考える)
10	テストメイク①	実際に自分達のデザインしたメイクを仕上げしてみる。更にコンセプトシートと照らし合わせてそこへのアドバイスを受け、ブラッシュアップを図る。
11	テストメイク②	実際に自分達のデザインしたメイクを仕上げしてみる。更にコンセプトシートと照らし合わせてそこへのアドバイスを受け、ブラッシュアップを図る。
12	中間プレゼンテーション	実際にメイクを見せ(セルフメイク可)更に、ロケーション・撮影イメージ 仕上がりがイメージをプレゼンする。 (場合によっては現時点での順位付けも考える)
13	最終ブラッシュアップ	全てを踏まえた上での最終ブラッシュアップ。コールシート作成。
14	定期試験のための撮影	テーマに沿った作品を作成。実際にモデルにメイクし、シューティングする。 (学校側でフォトグラファーの手配をお願い致します)
15	定期試験	撮影した作品をプレゼンテーションする。作品は実際にプリントアウトする事。 プライズ発表も行なう。

科目名 (英)	ヘアメイクⅡ Hair makeupⅡ	年次	2	実務経験	担当	長尾 建
		授業形態	演習			
		時間数	30	有		
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2			
講師紹介	ヘアメイクアップアーティストとして雑誌・ドラマ・映画・CM・TV・ブライダルなど様々な現場を経験してきました。これまでの経験からそれぞれの現場で役立つ基礎的な技術・知識をお伝えします。					
目的 科目概要	目的: 仕事の現場で必要とされるヘアとメイクのトータルバランスを学ぶ。 概要: この科目では卒業後、即戦力として職業人になれる様、自身のイメージをヘアメイクに応用でき、他者に伝える能力を養う。					
到達目標	様々な現場で必要とされるスキルやイメージは違う為、それぞれの差異を知り、最適なトータルバランスを提案出来る様になる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材	ヘア道具・メイク道具一式					
特記事項	授業は実習で行う為メモを取る様に心掛けて下さい。					
授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8	スキンケア理論	肌の構造を知り、その人に合ったスキンケアの方法を学ぶ。				
9	ベースメイク理論	仕上げる肌のイメージに合ったベースメイクを提供出来る様論理的な技術を学ぶ。				
10	ポイントメイク理論	骨格に合ったポイントメイクの理論を学ぶ。				
11	トレンドヘアアレンジ	業界で流行しているヘアアレンジのテクニックを学ぶ。				
12	テーマメイク1	モードメイクのヘアメイクを学ぶ。				
13	テーマメイク2	カタログで流行しているヘアメイクを学ぶ。				
14	定期試験対策	定期試験に向けてテーマに沿ったヘアメイクをデザインし各自練習する。				
15	定期試験	決められたテーマに沿ったヘアメイクを行う。				

科目名 (英)	ヘアメイクⅡ Hair Makeup Ⅱ	年次	2	実務経験	担当	大和田一樹
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	メイクアップアーティストとしてスチール、ショーのメイクアップ、またメイクアップディレクターとして化粧品の開発・プロデュース・メイクセミナーの講師、自らTV出演など化粧品とメイクアップに関する様々な業務を歴任してきました。ここではメイクアップに必要な専門的な理論と技術を習得する授業を行います。					
目的 科目概要	目的:ヘアメイクとして幅広いメイクアップの表現力を身につける。 科目概要:TV・映画で必要な特殊なメイクを学ぶ、クリエイティブなメイク表現を学ぶ。					
到達目標	TV・映画で必要な特殊なメイクを習得できる。、クリエイティブなメイク表現を理解することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	適宜参考画像など資料用意します。		事前事後 学習と その内容	前もって参考になる画像などをリサーチしておくこと。手順が特殊なので何度か実践いつでも再現できるようにしておくこと。		
教材	メイク教材と学校準備の共有教材					
特記事項	手順が特殊なのでしっかりとメモを取ること。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	特殊メイク	傷・アザ・火傷、銃創などの特殊メイクを習得する。
2	特殊メイク	日焼け・汚れ・死人メイクを習得する。
3	スカルメイク	生身の顔に骨格にあった骸骨のメイクアップを習得する。
4	老けメイク	コントゥアリングの応用でリアルな老人メイクを習得する。
5	ゾンビメイク	傷・スカル・老人・死人などの応用でゾンビメイクを習得する。
6	中間試験演習	中間試験の内容確認、演習。
7	中間試験	テーマに沿ったフルメイク(20点)
8	異素材を使用したメイク	ラインストーン、羽、紙、写真素材など異素材を使用したメイクアップでデザイン構成を組み立てることを習得する。
9	2ディメンショナルメイク	立体である顔の中に平面を描くことで直線的なラインを描くことを向上させることができる。
10	多色グラデーションメイク	多色遣いでグラデーションを活かしたメイクデザインを習得する。
11	多色ブロッキングメイク	多色遣いでブロッキングを使いメイクデザインを習得する。
12	ボディメイク	転写とドローイングを駆使してボディメイクを習得する。
13	創作	自由創作作品づくり、デザイン画作成及びフィードバックを行う。
14	定期試験演習	デザイン画に基づき作品制作およびフィードバック。完成度を高める技術を習得する。
15	定期試験	限られた時間内でデザイン画に基づき作品制作(50点)

科目名 (英)	エアブラシ airbrush make	年次	2	実務経験	担当	福間千里 藤井明花
		授業形態	実習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	ヘアメイクの他にエアブラシを得意とし、ボディペイントも手がける。様々な現場を経験し現在はフリーとして活躍。専門的な知識・技術を習得する授業を行う。実習がメインとなる授業の為、ひとつひとつの授業を大切に復習をしっかり行い授業に臨んで欲しい。					
目的 科目概要	エアブラシのテクニックを習得し、基礎技術を活かした様々なアートに応用できるよう学ぶ。					
到達目標	エアブラシの特質を理解し自らの発想でデザインを作れるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	資料あり		事前事後 学習と その内容	実習後、次の授業までに復習をし、より確実に身につけることが望ましい。		
教材	エアブラシー式 ヘアメイク道具一式					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	エアブラシとは	基本的な道具の扱い、構造、仕組み ペーパーを使ったエアブラシ基礎技術
2	カラーミックスの方法	ベースメイクの基礎技術
3	ステンシルを使ったテクニック①	ステンシルとは ステンシルの作り方、使い方
4	ステンシルを使ったテクニック②	フェイクタトゥ
5	ボディジュエリー①	ボディジュエリーとは 基礎技術
6	ボディジュエリー②	ボディペイント
7	中間試験	実技・筆記テスト
8	ドレス撮影	ヘアメイクさんとクライアント役に分かれ、ドレスフィッティング、小物合わせを行い、コーディネーターに合わせてヘアメイクを行う。ボディペイントを使用すること。校内でスマホで撮影をする。
9	ドレス撮影	ヘアメイクさんとクライアント役に分かれ、ドレスフィッティング、小物合わせを行い、コーディネーターに合わせてヘアメイクを行う。ボディペイントを使用すること。校内でスマホで撮影をする。
10	グループワーク	ステンシルを使用したシュウウエムラのヘアメイクショーに合うカラーメイクを考える。(3人1組でモデル・ヘア・メイクをそれぞれ担当する)デッサンシート作成
11	グループワーク	ステンシルを使用したシュウウエムラのヘアメイクショーに合うカラーメイクを上げる。
12	リメイク	20～90年代の特徴的なヘアメイクを現代版にリメイクして作品を考える。課題シート作成
13	リメイク	20～90年代の特徴的なヘアメイクを現代版にリメイクして作品を考える。課題シート提出
14	定期試験対策	今までの技術を総合し、自由に作品を考える。課題シート作成
15	定期試験	今までの技術を総合し、作品を仕上げる。課題シート提出

科目名 (英)	ビューティーイングリッシュ Beauty English	年次	2	実務経験	担当	ILC
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	2			
講師紹介	滋慶学園の英語教育に長期にわたって携わり、Active Learningに取り組んできたネイティブ教師が、高校までの英語教育と異なり、学生が外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。					
目的 科目概要						
到達目標	美容の様々なビジネスシーンでお客様と英語で基本的なコミュニケーションを取ることが出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	English for Beauticians		事前事後 学習と その内容	自宅で教科書の予習・復習を行うこと。		
教材						
特記事項	教科書、ノート、筆記用具を持参し、配布されたプリントはファイルに取っておくこと。先生が板書した内容を丁寧にノートに取ること。積極的に授業に参加してください。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	Unit 1 挨拶	自己紹介・仕事を紹介する表現を学ぶ 自己紹介が出来るようになる 自身の仕事について紹介出来るようになる
2	Unit 2 電話予約	電話予約の表現を学ぶ 電話で予約を承ることが出来るようになる
3	Unit 3 飛び込み客	飛び込み客への対応の表現を学ぶ 飛び込み客の対応が出来るようになる
4	Unit 4 お客様へ質問する	丁寧な質問の仕方を学ぶ お客様に丁寧な質問が出来るようになる
5	Unit 5 道案内	道案内の表現を学ぶ サロンまでの道案内が出来るようになる
6	Unit 6 会計	会計の表現を学ぶ 会計をすることが出来るようになる
7	中間試験	中間試験
8	Unit 8 施術中	気遣う表現を学ぶ 施術中お客様を気遣う表現が出来るようになる
9	Unit 9 お客様の要望	丁寧な質問の仕方を学ぶ2 お客様に仕上がりはどのようにしたいか聞くことが出来るようになる
10	Unit 10 おすすめのメニュー	物事をすすめる表現を学ぶ お客様にあるメニューをおすすめ出来るようになる
11	Unit 11 おすすめの商品	物事をすすめる表現を学ぶ2 お客様にある商品をおすすめ出来るようになる
12	Unit 12 お客様を褒める	褒める表現を学ぶ お客様を褒める表現が出来るようになる お客様と雑談出来るようになる
13	Unit 13 雑談	会話を続ける方法を学ぶ お客様と雑談出来るようになる2
14	Unit 14 復習	Unit 1-13 復習
15	定期試験	定期試験

科目名 (英)	美容総合技術Ⅱ Beauty PracticeⅡ	年次	2	実務経験	担当	矢澤勇
		授業形態	演習			
		時間数	30	有		
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2			
講師紹介	キッズモデルからモデルキャリアスタート、後に国内海外ブランドでショップ店員、雑誌やCMに舞台など衣装を幅広くやっているスタイリストがデザインを教える。					
目的 科目概要	デザイン画の基本を学びファッションやメイクのデザイン基礎力をつける					
到達目標	デザインに用いるものにより見え方や感じ方に違いを学び、作品作り等に生かすことができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材	筆記用具					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8	デザイントレーニング	シンメトリーとアシンメトリー、リズム、バランスについて身の周りにあるデザインについて考える
9	チームデザイン	カメラマン・衣装・スタイリスト・照明それぞれの役割チームでものづくりをすることについて理解する
10	広告デザイン	デザインがもつ特性を考える身の周りにある広告について考える
11	トレンド研究Ⅰ	スタイリングからキャラクター性やテイストの好みを知る
12	トレンド研究Ⅱ	ファッションショーなどのコレクションからストリートファッションにどのような影響を与えてるかを学び理解する
13	SNS対策	SNSからのトレンド発信の仕方やトレンドの押さえ方を学び理解する
14	定期試験対策	プレゼンボードの製作方法とプレゼンの仕方を学び習得する
15	定期試験	プレゼンボードを使ってプレゼン

科目名 (英)	美容総合技術Ⅱ Beauty PracticeⅡ	年次	2	実務経験	担当	見藤 恭介
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	シャンプーブローからアイロンを用いたスタイリングまでの技術指導を行う。また写真個展、映像・音楽制作、ヘアショーディレクション等のジャンルに捉われない創作活動での経験を元に、後半には撮影実習を行い、基礎的な技術を応用してイメージを形にする能力、技術者としての自分の世界観を追求する姿勢を伝えたい。					
目的 科目概要	目的:シャンプーブロー、スタイリングの基本的技術の習得。イメージをヘアデザインに落とし込む力を養う。 概要:基礎技術に加え、実習を通して生徒自身が自分で考え行動できる力を養いたい。					
到達目標	技術を目的に割って使い分けられる。ゲストに求められている技術が提供でき、コミュニケーションがとれる。生徒自身がこだわりを持ってイメージを具現化できる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書						
教材	適宜指示	事前事後 学習と その内容	学んだ内容を普段から試してみてください。自分で考え実践してみることが一番大切です。			
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・技術展示	授業の趣旨を把握する。シャンプーの目的・手順を理解する。
2	シャンプーブロー実習	相モデルでのシャンプーブロー実習。
3	シャンプーブロー実習	相モデルでのシャンプーブロー実習。
4	シャンプーブロー・アイロンスタイリング実習	相モデルでのシャンプーブロー・アイロンスタイリング実習。
5	シャンプーブロー・アイロンスタイリング実習	相モデルでのシャンプーブロー・アイロンスタイリング実習。
6	中間試験	相モデルでの技術試験。シャンプーブロー・アイロンスタイリング
7	イメージ別ヘアスタイリング	テーマに沿ってヘアデザインを考え、これまでに学んだ基礎技術を応用する力を養う。授業後半では自分で作ったヘアデザインのプレゼンを行う。
8	ファッション別ヘアスタイリング	テーマに沿ってヘアデザインを考え、これまでに学んだ基礎技術を応用する力を養う。授業後半では自分で作ったヘアデザインのプレゼンを行う。
9	異素材ヘアスタイリング	異素材を用いたヘアスタイリングに触れ、実践してみる。
10	撮影実習について	撮影実習までの計画立て。テーマについて考える。
11	イメージワーク	撮影実習に向けて、イメージカラーージュを製作する。
12	イメージワーク	撮影実習に向けてのヘアスタイリング練習
13	撮影テクニック	ヘアデザインをモデル・写真に落とし込む際のテクニックを学び、撮影実習に活かせるようにする。
14	撮影実習	撮影実習。テーマに沿った作品を撮影する。
15	プレゼンテーション(定期試験)	作品のプレゼンテーションを行う。